

Advance

立場が変わると、見える景色が変わる

この秋の7年生、まさに「支えることを通して成長する」季節を迎えています。

スポーツフェスティバルや強歩会では、これまでの「参加する側」から「運営する側」へと立場を変え、仲間のため、そして全体のために考えて動く姿が随所に見られました。

その変化は、単なる行事の一場面を超えて、子どもたちの人間的な成長を確かに示しているように感じます。

強歩会では、チェックポイントを担当したり、低学年の子どもと一緒に歩いたり、昨年度のリベンジとして35kmに挑戦したり...と、それぞれが違う角度から行事を支えました。

「チェックポイントではどんな貢献ができるのか」「疲れた人をどう励ませるか」「どうすれば最後まで気持ちよく歩けるのか」そうした問いを自分たちで考え、仲間と相談しながら行動する姿がありました。

その中には、「人のために動くこと」の喜びや責任、そして「想像する力」が確かに育っていると言えます。

心理学者 アルフレッド・アドラーは、

「人は他者に貢献することでのみ、ほんとうの幸福を感じることができる」と語っています。

この言葉は、いまの7年生を象徴しているように思います。

誰かのために行動する...うまくいかないこともあります。その中で「ありがとう」や「おつかれさま」という言葉の重みを知り、相手の立場に立って考えることができるようになってきました。

人の気持ちを想像し、実際に行動に移せるようになった。これこそが、7年生のこの時期に見られる一番の成長です。

運営する立場にまわると、見えなかったことが見えてきます。「行事を楽しむ」だけでは気づけなかった裏側の努力、準備する人の工夫、全体を動かすことの大変さ、そして多くの人々からのサポートや応援。

それらを肌で感じた経験は、きっとこれからの学びや生き方を支える大きな財産になるはずです。

失敗や迷いの中にも学びがあり、その一つひとつを通して、責任感や協働の力が確かに育っています。

こうした経験の積み重ねは、学習面にも少しずつ表れ始めています。授業での意見のやりとりが深まり、話し合いの中で相手の意見を受け止めながら考えを深める姿が増えてきました。

「相手を理解した上で自分の考えを伝える」という姿勢が、経験を通じて自然に身についてきたのだと感じます。

チームでの活動でも、自分の得意なことを活かしながら仲間を支える姿が、あちこちで見られるようになりました。

そして今、12月6日（土）のSOLANフェスタに向けて、7年生はさらに大きな一歩を踏み出そうとしています。

フェスタは、これまでの学びの成果を発表する場であると同時に、もう1つの「大きな挑戦のステージ」でもあります。

各チームがテーマを立て、試行錯誤を重ねながら、形のないアイデアを形にしていく過程に、子どもたちの真剣なまなざしがあります。議論がうまくまとまらない日もありますが、思うように時間が取れないこともあります。

それでも、悩み、ぶつかり合いながらも、「自分たちの力で何かをつくり上げたい」という思いが、日々強くなっているのを感じます。

保護者の皆さまには、ぜひこの時期、お子さまがこぼす「ちょっとしたつぶやき」に耳を傾けていただけたらと思います。「今日、うまくいかなかった」「チームで意見が合わなかった」そんな言葉の奥には、挑戦している証が隠れています。悩みながら前進する過程そのものが、まさに今の7年生の「学びの中心」です。どうか、その姿を温かく見守っていただければと思います。

立場が変わると、見える景色が変わる。

そして、その新しい景色の中で、人の気持ちを考えながら動けるようになる。この秋から冬にかけての経験は、7年生にとってかけがえのない成長のプロセスです。

12月6日（土）、SOLANフェスタで、仲間とともに輝く子どもたちの姿を、ぜひご覧ください。その姿の中に、きっと「未来をつくる力」が見えてくるはずです。私も心から楽しみにしています。

【試験運用】聴くClassNewsletterはこちら

We will value "Purpose" and "Ownership" for you